令和６年２月

(株) 公論出版 編集部

『甲種 危険物取扱者試験　令和６年版』に関するお詫びと訂正のご案内

『甲種 危険物取扱者試験　令和６年版』の内容について誤りがありましたことを、心よりお詫び申し上げます。以下の通り訂正致しますので、お手持ちの本書に加筆訂正をお願い致します。

ご迷惑をおかけ致しまして誠に申し訳ございません。

よろしくお願い申し上げます。

初 版

<table>
<tr><td>P23

更新：R6.2.5</td><td>赤字部分を訂正</td><td>問 10…正解２
指定数量の倍数はそれぞれ、第１種自己反応性物質10kg、第２種可燃性固体500kg、第３種酸化性固体1,000kgである。
（100kg ／ 10kg）＋（1,000kg ／ 500kg）＋（2,000kg ／ 1,000kg）＝14</td></tr>
<tr><td>P184

更新：R6.1.30</td><td>赤字部分を訂正</td><td>問９…正解１（B）
A．二硫化炭素は第４類の危険物に該当する。
B．過酸化カリウムは第１類の危険物（不燃性）に該当する。可燃物となるものがない。
C．鉄粉は第２類の危険物に該当する。酸化熱の蓄積により自然発火することがある。
D．ナトリウムは第３類の危険物に該当する。ナトリウムは水と反応して水素を発生し、この水素が反応熱で発火することがある。
E．硝酸メチルは第５類の危険物に該当する。硝酸メチルは加熱すると爆発しやすい。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">P196

更新：R6.1.29</td><td>誤</td><td>問８…正解３
完全燃焼時の化学反応式　$2CH_3OH + 3O_2 \longrightarrow 2CO_2 + 4H_2O$
化学反応式から、２mol のメタノールの完全燃焼で２mol の二酸化炭素が生成していることがわかる。
気体１mol の体積は 22.4L であることから、発生する二酸化炭素の体積は 22.4L × 2 = 44.8L となり、最も近いものは 45L となる。</td></tr>
<tr><td>正</td><td>問８…正解１
完全燃焼時の化学反応式　$2CH_3OH + 3O_2 \longrightarrow 2CO_2 + 4H_2O$
化学反応式から、２mol のメタノールの完全燃焼で２mol の二酸化炭素が生成していることがわかる。
気体１mol の体積は 22.4L であることから、発生する二酸化炭素１mol の体積は 22.4L となり、最も近いものは 22L となる。</td></tr>
<tr><td>P262

更新：R6.2.26</td><td>赤字部分を訂正</td><td>問３…正解２
水・ホウ酸・飽和水溶液の関係をまとめる。
<table>
<tr><td></td><td>水</td><td>ホウ酸</td><td>飽和水溶液</td></tr>
<tr><td>温度80℃</td><td>100g</td><td>25g</td><td>125g</td></tr>
<tr><td>温度20℃</td><td>100g</td><td>５g</td><td>105g</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>P413

更新：R6.2.20</td><td>赤字部分を訂正</td><td>■金属のリン化物
▶リン化カルシウム Ca_3P_2
<table>
<tr><td>性　質</td><td>◎暗赤色の結晶性粉末、または灰色の塊状固体。
◎比重2.5。　　◎融点1600℃。
（略）</td></tr>
</table></td></tr>
</table>